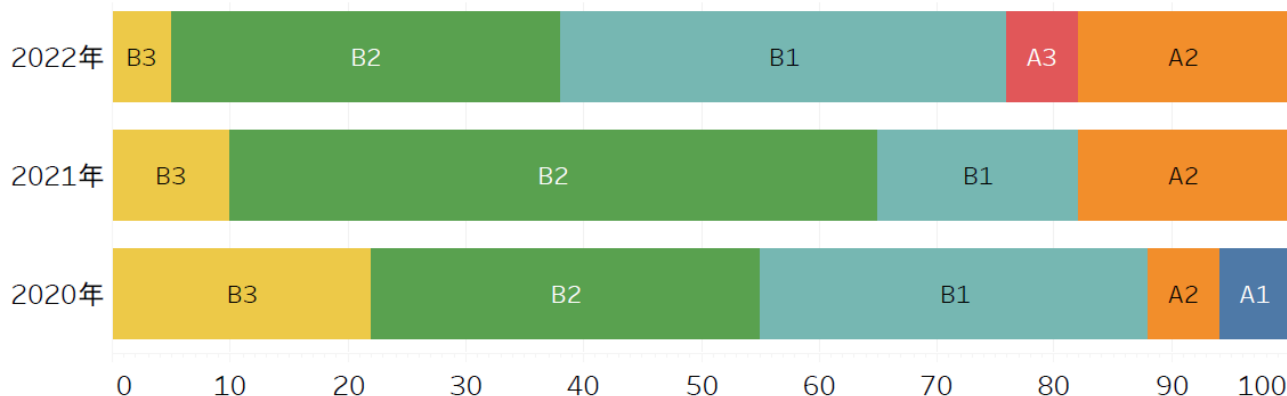


2022 年度 東邦大学付属東邦 算数（前期）

各年度の前期入試の思考コード別出題割合は次のようになります。論理的思考力・応用力が求められる思考コード B の問題が中心となります。2021 年と比べ、B3、B2 の出題割合が減り、B1 が増えています。総設問数 18 問は例年通りの構成でしたが、東邦大付属東邦志望者であれば確実に得点しておきたい問題が多く見られたため、前半の失点は合格者との差を生む大きな原因となりました。



大問 1、2 は、計算、典型的な一行題です。確実に得点しておきたい問題が並びます。大問 3 は、台形内部を直線で分割してできた三角形に関する問題です。平行四辺形 ABHD に注目することがポイントです。(2)は、三角形 EHD の等積変形を利用することで、三角形 FDH との面積比を求めることができます。

大問 4 は、文字情報を正確に読み取って、指示内容を式化する問題です。(2)は、「97 度まで上がると停止、93 度まで下がると再起動する」点に注目します。最初に 97 度まで上がる時間を調べ、その後、93 度まで下がり再び 97 度まで上がる時間を求めることで、規則的な時間の変化をとらえることができます。大問 5 は、差がついたと考えられます。試験中に焦ってしまい、解法が思い浮かばなかった受験生がいたかもしれません。(1)は、「長さの和が最も短くなる時」とあるので、展開図を利用して、相似な三角形に注目します。(2)は、投影図で表されていますが、立方体の見取り図 AF、AC と CF を結んだ切り口を考えるだけの問題でした。

大問 6 は、約束記号の問題です。素因数分解を利用して積を求めます。(1)、(2)は取っておきたい問題です。(3)は、約束記号が 2 種類あって捉えづらいです。後回しにして、落ち着いて取り組めば答えにたどり着ける問題でした。大問 7 は、学習指導要領の改訂に伴って新設された「データの活用」が扱われています。文字情報、資料をていねいに読み取る力、また、資料の特徴的な部分に注目する力が問われる新しい傾向の問題です。問題文に「例えば、グラフ E で矢印がさす点は国語 58 点、算数 95 点の生徒を表します」と示されています。この手がかりから、算数はグラフ A、C であることに気づくことができます。(3)は情報の整理に手間がかかるため、見送った受験生が多かったかもしれません。

今年度は確実に取っておきたい問題が多く見られたため、1 問の取りこぼしが大きな差となったことが考えられます。あくまでも予想ですが、大問 3(2)、大問 4(2)、大問 5(2)、大問 6(2)、大問 7(3)が取れなかったとしても 7 割に達することができると考えられます。限られた時間を有効に使うためにも、問題の取捨選択が大切です。